

17 私の、私たちにとっての家族のかたち

～「家族」って何だろう？映画『うまれる ずっと、いっしょ。』から～

○開催目的

自分にとっての家族、誰かにとっての家族とは、どんなものでしょうか。それぞれが多様な家族のかたちをとらえることができれば、社会で、地域でもっと暮らしやすくなるのではないのでしょうか。「家族」をテーマにしたドキュメンタリー映画の鑑賞とディスカッションを通し、その可能性をさぐります。

○開催日時

2月14日（日）10：00～13：00

○参加者数・出演者・団体

参加者数：40名（参加者37名、スタッフ3名）

○プログラム内容・成果と課題

1 開会・趣旨説明

2 映画鑑賞

鑑賞作品：「うまれる ずっと、いっしょ。」

映画の内容：

- ・血のつながりのない家族
- ・愛する人に先立たれる家族
- ・死と向き合う毎日を生きる家族

と、それぞれの事情に向き合う3家族の姿を通して、自分たちが生まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、幸せのあり方を考え、感じる作品。

3 参加者同士のディスカッション

近くの席の参加者同士で輪になり、

- ・映画を鑑賞した感想
 - ・自分にとっての家族ってどんなもの？
- というテーマで意見交換、共有しました。

4 午後の分科会の案内

引き続き“家族”や“地域”をテーマに、13:30から行う、「分科会22 “地域のかたち” “家族のかたち”の今」について、担当者から内容の紹介と案内をしました。



成果と課題

ボランティア・市民活動に参加する人、興味のある人、中間支援組織で働く人のほか、大学生や妊娠中の方、子ども連れの家族など、幅広い層に参加していただきました。さまざまな参加者がいる中で、映画を観るということだけでなく、鑑賞後に感想や意見を交換できたことで、それぞれの家族観を共有し広がりをもつことができました。

「家族という枠組みを超えた、新しい家族の形が見えてくると期待した。」という参加者からのコメントもありましたが、家族的なつながりや、心情がうまれるような場や取り組みについても、引き続き考えていきたいです。

○参加者の声

- いろいろな家族のかたち、命、絆等を学ぶことができました。これから、家族のあり方について、今一度考えてみたいと思いました。
- 家族が大切だと心から思っているけど、忙しい毎日を過ごす中で片隅に追いやられてしまうこともあります。今日、帰ったら実家に電話をしたいと思います。
- 映画が素晴らしかった事、最後の話し合いが、皆、思いやりがあってよかったです。
- 一人ひとりに家族の物語があることを知って家族を大切にしていこうと思いました。

○担当者・記録

《担当》	志田 五十鈴（こまえボランティア・センター）
	粟澤 稚富美（公益財団法人社会教育協会 ひの社会教育センター 子育てカフェ「モグモグ」）
	中野 宏美（NPO 法人しあわせなみだ）
《記録》	志田 五十鈴（社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会）